

アクションプラン年度末評価

今年度は、重点目標を「主体的・協働的な学びを通して、生徒の社会性と学力を高めるー自尊感情を高め、学び合いを充実させるー」として、数値目標を定めたアクションプランを設定し取り組んできた。

中間評価では、自尊感情を高める取組に関しては生徒の肯定的評価が目標に 15 ポイント程度届いていなかったが、今回の評価では「係活動や生徒会活動で、自分は役に立っている」「自分にはよいところがあると思う」についての生徒評価が 12 ポイント以上上昇し、年度当初に設定した数値目標（80 ポイント）にかなり近づけることができた。学校行事や生徒会活動で生徒が活躍できる場면을意図的に設定したり、活躍の場面で称賛・励ましの言葉をかけるよう心がけたことなどが要因としてあげられる。

一方、中間評価で特に評価の低かった「授業の中でよく考え、意見や考えを発表する」に関しては、生徒の肯定的評価は 8 ポイント向上したものの数値目標（80 ポイント）には 15 ポイント以上届かなかった。対話の中で学んだことを全体場で発表し、議論する場면을意図的に多く設定したり、考えたことを書いてまとめる時間を確保するなどして自信をもって発表できるようにするなどの配慮が今後も引き続き必要である。

今年度のアクションプランでは、生徒評価と保護者評価を重視した。それは、生徒と保護者が何よりも学校教育の当事者であると考えからである。教職員の努力の結果、生徒評価は上昇傾向にある反面、保護者評価が中間評価よりも全体的に低くなったことは反省を要する。全体的には肯定的評価が多く保護者からも良い評価をしていただいているとは考えるが、学校行事や公開授業、懇談会等で、できるだけ多くの保護者の声を汲み上げ、PTA や地域とも連携しながら教育活動の改善に不断に取り組まなければならないと考える。

年度末評価結果の概要については、以下のグラフをご覧ください。

R1 学校評価(アクションプラン) 12月 (生徒、保護者、教員の比較)

重点目標 「主体的・協働的な学びを通して、生徒の社会性と学力を高める」

－ 自尊感情を高め、学び合いを充実させる －

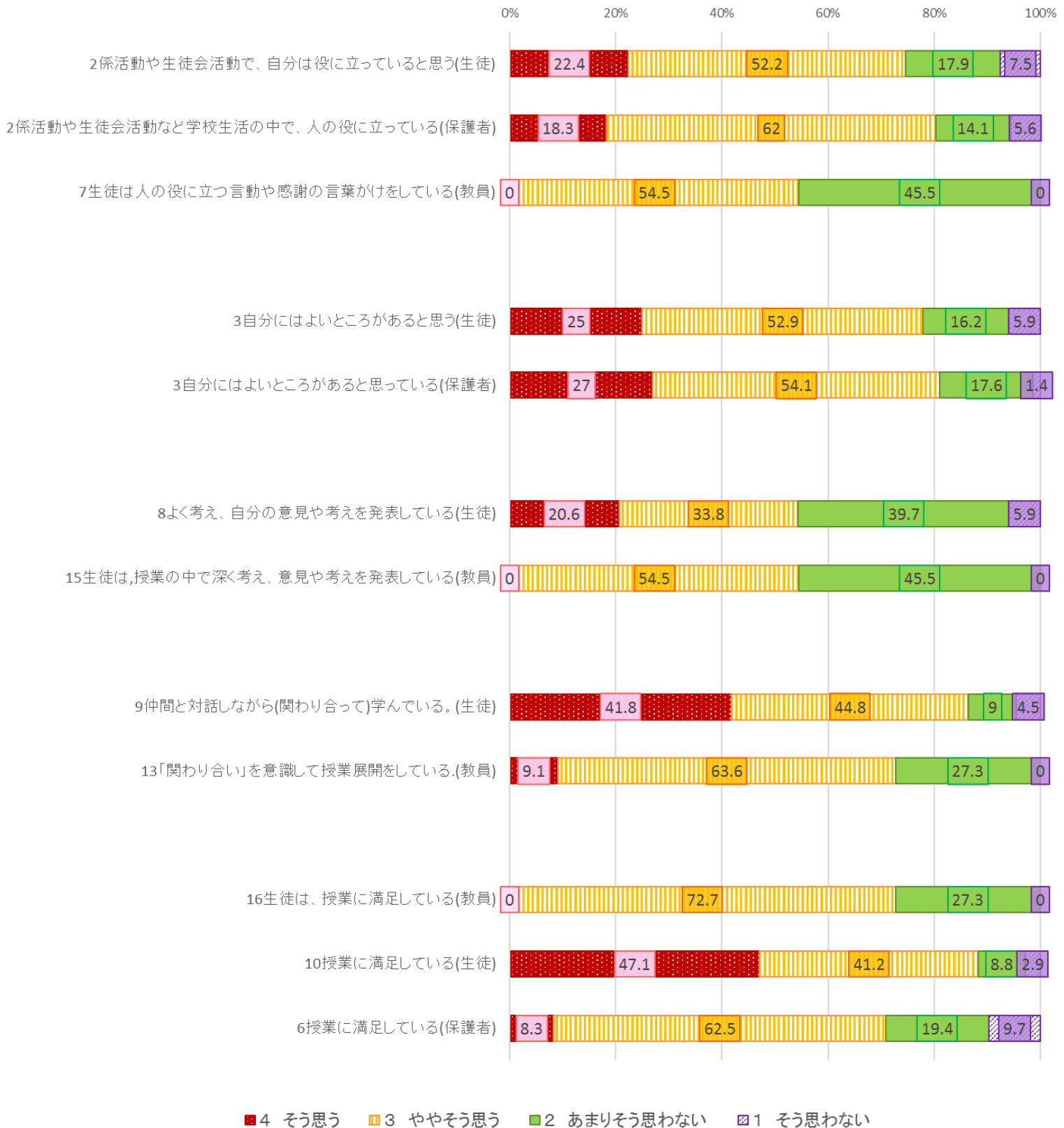
1 自尊感情を高める教育活動の推進

左が目標値、()内は12月の結果

- ・係活動や生徒会活動で、自分(子供)は役に立っていると思う…………… 生徒 80% (75%) △ 保護者 90% (80%) △
- ・自分にはよいところがあると思う生徒…………… 生徒 80% (78%) △ 保護者 90% (81%) △

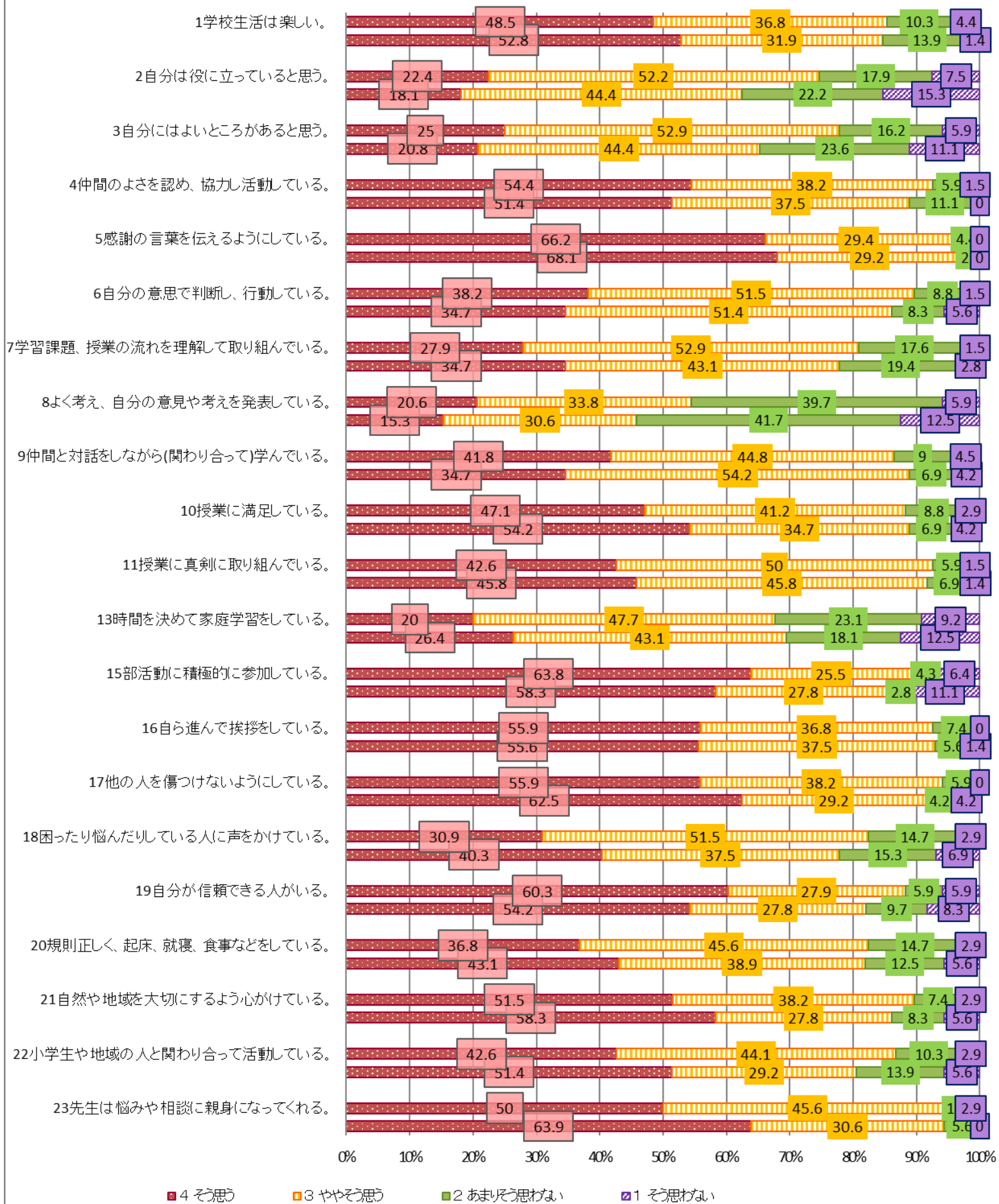
2 対話を重視した学び合いの充実

- ・授業の中でよく考え、意見や考えを発表する生徒…………… 70% (54%) ×
- ・仲間と対話しながら関わって学んでいる生徒…………… 90% (87%) △



令和元年度 学校評価 生徒集計結果

12月調査(下段は7月調査)



R1 学校評価 保護者集計結果 12月調査

